

九条の会

2005・11・29

第 58 号

101-0065 東京都千代田区
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

自民党「新憲法草案」を厳しく批判

九条の会がシンポジウム

九条の会は 11 月 27 日、シンポジウム「自民党改憲案は日本をどこに導くか」を東京都内で開催し、260 人が参加しました。

シンポジウムでは、最初によびかけ人の加藤周一さんがあいさつ。昨年発足した九条の会の運動には、① 9 条改憲に反対する一人ひとりが自分は何故反対なのかという原点を訴え、広げてきたこと、② 憲法の専門家から学び自分の考えを深めてきたこと——の二つの側面があることを紹介、自身の 9 条に関する想いを語りました。

つづいて奥平康弘・東京大学名誉教授が報告。奥平さんは、自民党新憲法草案は保守的内容をトーンダウンしているようにみえるが、入れるべきものは全部入れていると指摘して前文などを批判するとともに、改憲派が「現実を変えるのではなく現実に憲法をあわせる」などと述べていることの危険性を、戦前の治安維持法などの例をあげて明らかにしました。

これを受けて報告した山内敏弘・龍谷大学教授は、9 条 1 項が残されたことで平和

主義が維持されたという見方があることへの批判から入り、9 条 2 項を削除して自衛軍の保持を明記したことの危険性をさまざまな角度から明らかにしました。また、人権にたいする抑圧や首相の権限強化など多面的に「戦争する国」をめざす方向がうちだされていることも指摘しました。

会場では熱心にメモをとりながら聞き入る姿が目立ち、2 人の報告に寄せられた質問用紙は 40 通を超えました。そして、「憲法 9 条があるからこそできることは何か」、「憲法学者の動きはどうか」などの質問に奥平、山内の両氏は丁寧に回答しました。

地域・分野別の会が 3600 突破

シンポジウムの閉会にあたって、九条の会の小森陽一・事務局長から、11 月 26 日現在で、全国の地域・分野別の「会」が 3614 に達したことが報告されました。7 月に有明コロシアムで講演会を開いていらい、毎月 100 を超える勢いで「会」が広がっていることとなります。なお、事務局では今後都道府県ごとの地域・分野別「会」の結成数を毎月発表することを検討しています。

10代も多く参加した熊本講演会

「九条の会」と「くまもと九条の会」共催の講演会が11月22日開かれ、約1500人が参加しました。

講演会では、「くまもと九条の会」のよびかけ人で元連合熊本会長の福島将美さん、漫画家の石坂啓さん、「九条の会」の小田実さんが講演しました。会場には若い参加者も多く、10代の男女から、「いろいろ考えさせられた。来てよかったってマジ思う」、「3人のお話を聞いて、戦争はどれほど危険なものかをあらためて理解することができました」、「学校の授業で9条について少し学ぶ機会があっただけで、ほとんど気にも留

めていませんでした。…今日参加して9条の大事さに気づきました」などの感想が多数寄せられました。

「会」紹介のリーフ新装しました

「九条の会」はこのたび、発足いらい使用していた「会」紹介のリーフレットのデザインを一新しました。

新リーフレットは、タイトルを「憲法9条、未来をひらく」とし、9人のメンバーが一言ずつメッセージを寄せています。また、「九条の会」アピールのほかに、第九条の条文、「九条の会とは」の解説も。

B6版4つ折（従来と同じ大きさ）

1部10円

申し込みは事務局へ

《リレーメッセージ》

「九条」の必要なわけ

東京音楽ペンクラブ 佐々木 光



今の日本は明らかにおかしくなりつつある。あの戦争は止むを得ない正義の戦争だったんだとか、大東亜を解放するために役立ったとか、戦後鳴りを静めていた年寄りが、なんにも知らぬ若い世代にレトロ（回顧調）の波にのり呼びかけはじめた。飛んでもないことである。イラク派兵という横車、四面楚歌の中でも首相らの靖国参拝、強引な選挙、いい加減な国会運営、そこから感じられるのは戦前の嫌な雰囲気そのものである。

そして、今「憲法」改正ということによって、何をか謀らんとしている。政治家という顔ぶれ（自民、民主には隠れ右翼も多い）、そのほとんどが長いものに巻かれ、流されていく感じである。憲兵もいない、特高という戦前の組織はなくなって、言論の自由も一応はあるはずだが、何か口籠もっている。この風景は何だ。大変危ない。

世はグローバル化し、世界の動向は瞬時に判るといふ。だがマスコミは“自主規制”をして必要でない報道は多いが、真に必要な報道はしない。ジワジワと人びとの目や耳から真実覆い隠そうとしている。小泉改革とは“改革”に名をかりて、その煙幕で戦後日本を逆行させようとしているのではないか。

「九条の会」はこうした動きに対して、大きく手を広げて“NO”といわなければならない。いわば戦後の憲法が90%の出来であっても、これを65%にしようとしている様なもの。グローバル化した世界で、どういう風にも戦争の片棒を担ぐことをさせないため絶対に必要なことである。戦前のあの、おぞましい時代の空気を知る一人として――。